

# 第33回 名古屋芸術大学卒業制作展

2006年2月28日〔火〕－3月5日〔日〕

①愛知県美術館ギャラリー〔愛知芸術文化センター8階〕  
美術学部 絵画科(日本画・洋画)・美術文化学科・  
デザイン学部 デザイン学科  
10:00→18:00(金曜日は20:00まで)

②名古屋市民ギャラリー矢田  
美術学部 造形科・版画コース・  
デザイン学部 デザイン学科  
9:30→19:00(日曜日は17:00まで)

# 第10回 名古屋芸術大学大学院 美術研究科修了制作展

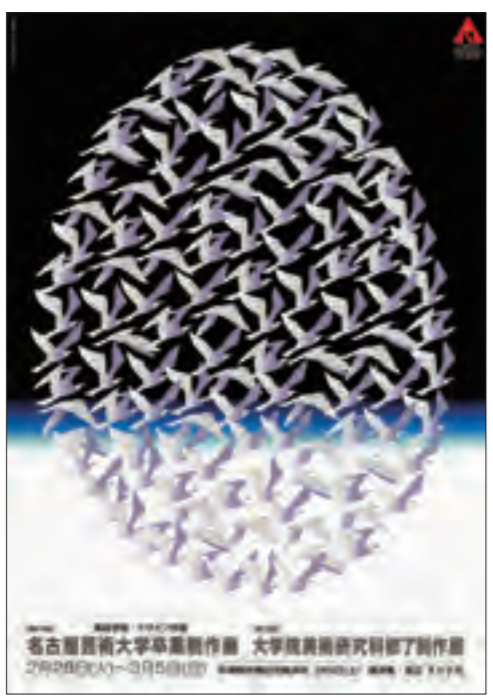
2006年2月28日〔火〕－3月5日〔日〕

③名古屋市民ギャラリー栄  
〔中区役所朝日生命共同ビル7・8階〕  
9:30-19:00(日曜日は17:00まで)

## 卒業制作展記念講演会

2006年3月4日〔土〕

「歩いてきた道、歩いてゆく道 舞台上に恋して」  
渡辺えり子氏  
(劇作家・演出家・女優)  
愛知芸術文化センター  
12階 アートスペース A  
※申し込みは終了しています。



アート&デザインセンター	
4	5
EXHIBITION SCHEDULE	
展覧会スケジュール	
Open 12:00-18:00 (最終日は17:00まで) 日曜・祝祭日休館	
〔入場無料〕どなたでもご覧いただけます。	
4/7 金 → 4/19 火	デザイン学科選抜レビュー展
4/21 金 → 4/26 水	iQué Mexico! [くつをいで] 帰国報告会
4/21 金 → 4/26 水	A thing to do. 版画選択コース
4/21 金 → 4/26 水	10階催事場展 デザイン学科SDコース
4/28 金 → 5/10 水	スイッチ展 デザイン学科MDコース
4/28 金 → 5/10 水	novels 名古屋芸術大学写真部
5/12 金 → 5/17 火	意識/無意識 デザイン学科造形実験コース
5/12 金 → 5/17 火	『@animation. アニメーション』展 デザイン学科造形実験コース
5/19 金 → 5/24 水	書道芸術演習・作品展
5/19 金 → 5/24 水	「結婚します、」 デザイン学科TDコース
5/26 金 → 5/31 水	野口翠蓮展「猫の目」 卒業生による展示
5/26 金 → 5/31 水	三人展(洋画) 絵画科洋画コース

Art & Design Center 名古屋芸術大学アート&デザインセンター 〒481-8535 愛知県西春日井郡西春日町 tel.0568-24-0325 fax.0568-24-0326

# B!e

## 特集 The aim of Education in Arts

### 『芸術教育の目指すもの』

名古屋芸術大学が発足して満35年が経過した。設立当初の設置目的に「...高度の一般教育を授けるとともに、深く芸術に関する専門の学芸技芸を教授、研究し、もってわが国の芸術文化の創造発展に寄与する人材を養成することを目的とする」と謳われている。開設時の美術学部の在籍学生数は61名、学部専任教員数は13名であった。施設・設備の不十分な中、片山宏(日本画)、国枝芳夫(洋画)、石田 清(彫刻)および居松暢(デザイン)ら地元出身の先生が中心となって美術教育が推進された。当時から今日まで一貫して続けている教育は、個々の学生の潜在的な資質を開花させようという方針に沿うものであった。そのためには自由な制作環境が不可欠であった。当時の学生は自主独立の気概に満ちていたという。

1992年をピークとする18歳人口の増加に対応して、本学も1986年に入学定員増を行ない、美術学部は180名の入学定員を確保することになった。さらに、1992年の臨時定員増を加えて、入学定員は220名に、受験人口の大幅な増加に対応することとなった。

学生数の増加に対応する教育研究条件の充実に向けた美術学部の各科(コース)の教員の献身的努力は特記されなければならない。学生たちに幅広い知識を授けるため、各コース主催の学外者による特別講義が数多く開催されるようになったのもこの時期からである。当時の学生から「多くの

可能性の提供があり、意欲さえあればこれほどの質沢はない」との声がよせられたほどである。デザイン学科においては、世界のトップデザイナーを客員教授として招聘し、学内ばかりでなく、社会で活躍するデザイナーに向けた公開講座を開催するなど、デザイン教育に対する社会からの評価は高まったと言える。

長年本学の学長として、芸術教育の重要性を説き、本学の発展の基礎を創られた牧定忠先生は「人間は美を求める本性があり、人間にとって芸術を無視しては社会が成り立たない。科学者にとっても豊かな人間性が求められている。科学技術に携わる人々にもメトデ(方法)としての芸術体系が導入される時代になってきた」と述べておられる。

かつてレイチェル・カーソン(1907-1964)は幼児の教育について「知識が種子だとすれば、さまざまな情緒や豊かな感受性はこの種子を育む肥沃な土壌です」と述べている。彼女は自然体験から感性の発達を述べているが、芸術教育にも共通するものであろう。合理性のみを強調する現代科学技術も、豊かな感性の土壌があってはじめて真の人間力が醸成され、その目的を達成するものであろう。

健全な社会の成立のためには芸術教育の重要性が一層認識されなければならない。 名古屋芸術大学 学長 大島俊三

編集後記

全国で行われている市町村合併、ここ西春日も3月20日から隣の師勝町と合併し、北名古屋市になります。それに伴い、師勝キャンパス(音楽学部・短期大学部)は東キャンパスとなり、アート&デザインセンターや美術学部・デザイン学部のある西春日キャンパスは西キャンパスという名称になります。この数年、市町村の名前がめまぐるしく変化しており、あたらしい名前が馴染むには少し時間がかかるかもしれませんが、よろしく願っています。

※新住所は以下の表記になります。  
〒481-8535 北名古屋市徳重西沼65

B!e Vol.12  
発行日 2006年2月27日  
編集 江坂恵里子(アート&デザインセンター)  
発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター  
〒481-8535 愛知県西春日井郡西春日町徳重西沼65  
Tel. 0568-24-0325 Fax. 0568-24-0326 (代表)  
Tel/Fax. 0568-24-2897 (直通)  
E-mail adc@nuua.ac.jp  
URL http://www.nuua.ac.jp  
デザイン 岩田知人(サンメッセ株式会社)  
印刷 サンメッセ株式会社

2006 Printed in Japan  
© Art & Design Center, Nagoya University of Arts



最寄り交通機関をご利用の場合  
名鉄犬山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)  
徳重-名古屋大駅下車徒歩15分  
※急行・準急乗車の場合は西春日で乗換電車に乗り換えてください  
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください  
西春日から北西約2,200m徒歩25分、西春日からはタクシーの便もあります

自動車をご利用の場合  
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分。  
※西春日は3月20日から師勝町と合併し、北名古屋市となります。





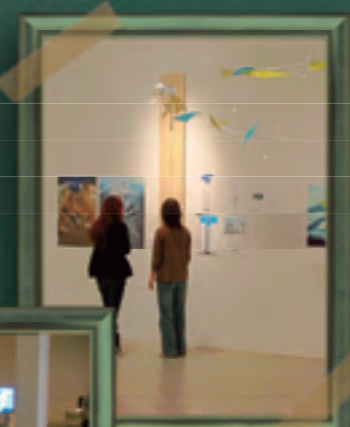
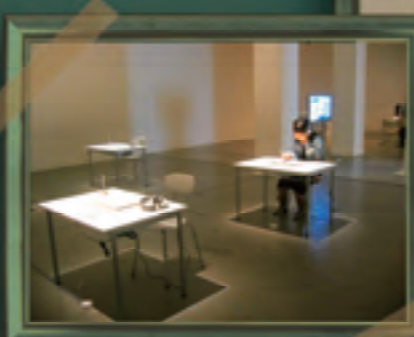
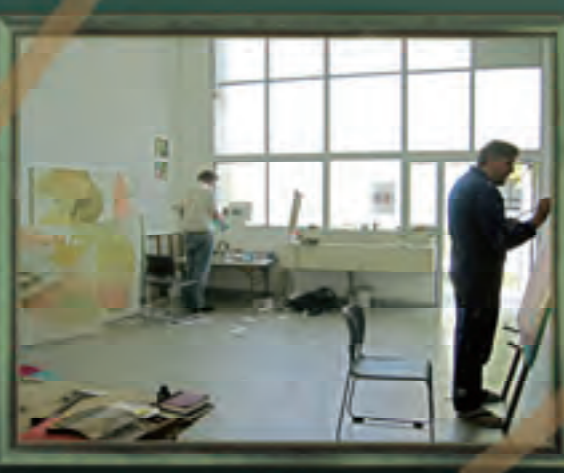
特集

# The aim of Education in Arts

芸術を対象とした学問領域は、多様性がますます広がりつつある一方、その価値観を再構築する新たな枠組みも求められています。こうした社会の要請に応え、創造領域を総合的に捉えたより高度な教育展開で、21世紀の新たな役割を担う人材育成を目指しています。自由でのびのびとした環境の中、個性を重視したカリキュラムを組むとともに、学外授業や最前線で活躍している著名アーティストやデザイナー、プロデューサーを特別講師に招へいするなど、モノ、コト、情報を有機的に関連づけながら指導しています。さまざまな出会い、体験に恵まれた専門空間で、グローバルな視野をもった芸術創造と、新しい芸術文化を生み出す環境創造に取り組んでもらいたいと考えます。

アート&デザインセンター長/美術学部長 神戸峰男

写真上から時計回り：  
折元立身展パフォーマンス、展覧会、ルド・ウィット氏（2005年度客員教授）による講義と展示風景、  
新宮晋展（2003年度客員教授）、「浸透する領域」MEDIASELECT2005展、  
imperfect - ミナ ベルホネンのクリエイティビティ展、ラウンジでのパーティ、  
JAGDA新人賞2005受賞展、FROM REMISEN（デンマークとの交流プロジェクト）スタジオでの滞在制作の様子



## レビュウ REVIEW レポート

### 「神戸 峰男展 —フランス古城での展覧会を終えて—」 2005年12月3日 - 10日 名古屋画廊

日展の中心的な作家として活躍している神戸氏の16年ぶりの個展である。今回は、昨年夏、フランスのブルゴーニュ古都オータン市で展示され、好評を博した帰国展で、ブロンズ像や石膏作品17点が展示された。

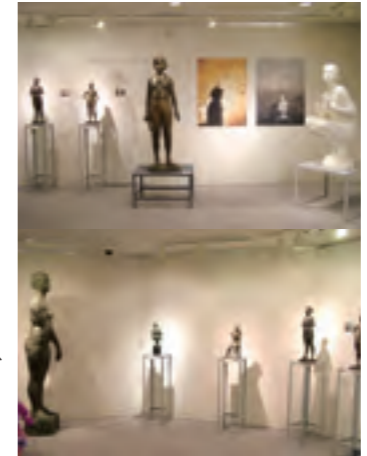
日展の彫刻は、客観的な自然主義を伝統にした具象彫刻で、テーマも圧倒的に人物像が多い。人物像の面白さは、肉づけとムーブメントであるが、とくにそこから生み出させる造形表現や人間の内面表現が重要といえる。

具象彫刻を追い求めている神戸氏にとって、抽象が主流のフランスで今回のフランス展がどう評価されるかは関心があったが、作家の持つ静謐で、精神性あふれる作品群が多くのフランス人に感銘を与えたことは喜ばしい。

とくに『赤とんぼ』の顔の表情やひざまずく女性座像『西の国より！』に見られる優雅さや普遍性、その造形表現は、見事なまでに美しい。

昨今、美術館冬の時代といわれ、現代作家の美術館や画廊での個展開催はなかなか難しく、作家にとっても厳しい時代が続いている。

しかし、作家にとっては、やはり個展を開き、自分の仕事を社会の人々に評価してもらうことは大切なことであり、個展が作家として生きていくための勝負の場でもある。特に彫刻家には、厳しいことといえるが、今回、神戸氏が10数年ぶりとはいえ、個展を開催し、自分の仕事を世に問うことができたことは意義深いことであり、今後のさらなる活躍に繋がることと思う。



美術学部 美術文化学科 教授 相羽規亮

### 「College Night at the Apple Store」 2005年12月22日 アップルストア 名古屋・栄



名古屋芸術大学、名古屋造形芸術大学、そして名古屋市立大学でそれぞれメディアデザインあるいは映像を学ぶ学生たちが、名古屋の中心地・栄で映像作品の発表を行った。「College Night」とはアップル・コンピュータが全国に展開する直営店において企画しているもので、ご当地の大学生による多様なプレゼンテーションが話題となっている。2005年の秋、東京・銀座、大阪・心斎橋でそれぞれスタートしたのに続き、ここ名古屋の地でも「College Night」は12月としては異例の大雪に見舞われながらも、なんとか開催の運びとなった。午後7時にスタート。普段はアップル製品のデモ展示が行われている一角に仮設スクリーンを設置。50ほど用意した座席も瞬く間に埋まり、立ち見が店内に溢れるほどの盛況ぶりであった。アップル直営店というよりは文字通り「ミニシアター」が栄に突然現れたようである。10月の下旬より、ほとんど学生主導で事前広報のあり方や進行内容が検討され、当日は3大学の紹介や個々の学生作品の上映、そして質疑応答などが活発に行われた。本学の学生たちも目標を同じくする他大学の学生との交流、そしてなにより「外」の人々に作品を見てもらえることにたいへん刺激を得たようであった。

デザイン学部メディアデザイン選択コース講師 池側隆之

### 『くつをぬいで。』プロジェクト 2005年12月 オアハカ(メキシコ)

昨春本学大学院同時代表現を修了した小野綾香、平田あすか、宮村こずえと、同2年の藤池正太の4名が、名古屋大学法学部4年の浅香ゆきさんが代表を務めるNPOイベロアメリカ芸術支援団体の仲立ちで、8ヶ月の準備期間を経て、スペインとメキシコの博士課程在籍の版画を学ぶ作家たちと交流を行いました。

まず7月に、バレンシア(スペイン)とオアハカ(メキシコ)から8名が訪れ、女性たちは西春町の好意で西春駅前の仮設店舗に滞在しながら制作し、男性たちは造形科の三枝優先生の計らいで、中小田井の善光寺別院願王寺に寄宿させていただきました。本学からは先の4名、愛知県立芸術大学からは大学院在籍者と修了者4名が加わり、本学版画工房で、真夏の暑い1ヶ月の制作が進み、本学アート&デザインセンターや名古屋大学野依学術交流記念館等で、制作した作品を披露しました。『くつをぬいで。』。異なる文化圏のアーティストが、日本の地で、膝突き合わせて真の国際交流をしたい!彼らはそうこの言葉に込めたのです。



11月末から1ヶ月、平田、宮村、藤池は、浅香さんと県芸大の辛愛麻さんと共にオアハカでのアーティスト・イン・レジデンスに招かれ、版画工房での制作とオアハカ市内で『GRABANDO(版画、記憶する)』を開催し、メキシコ人に日本の版画を教えるワークショップも行なって来ました。特に、黒人居留区に出かけ、メキシコの長い歴史の中で、虐げられ続けて来た黒人たちが、厳しい生活の中でも陽気に、いつも歌声を絶やさず生きている様子を目の当たりにし、彼らは大きく心を打たれました。6月には、今度はバレンシアでのレジデンスが控えています。都合2ヶ月以上の共同制作(生活)で、彼ら三国の若者たちは、心から通じ合い、互いの異なる文化を受け止めて成長した、そうつくづく感じます。いわゆる芸術の先進国に出かけての交流ではなく、そこに人がいるから表現する、悲しみがあるから喜びを表現する、ということも本質的な真理に出会ったのですから。さあ、またくつをはいて出かけよう!

美術学部版画研究室助教授 西村正幸

## RELAY ESSAY

### 分子の形と機能 …… 長谷川勘一

ミクロの精巧な造形美を考えると、雪の結晶を思い浮かべる人も多いと思います。天空から舞い落ちる一片の雪は氷点下の自然が作りだした六花の紋章です。顕微鏡から見える雪の結晶形はさまざまであり、その形は成長するときの雲海の温度と過飽和度という環境条件により微妙に変化します。雪の結晶を調べると、出生した上空の気象条件までわかります。雪の基本形が六花になるのも氷の通常構造が水分子中の2個の水素原子が周りの水分子中の酸素原子と水素結合して四面体配位をとる六方晶系であることに由来しています。

ミクロよりもっと小さなナノの世界で分子の形の美しいものにサッカーボールやラグビーボールの形をした球状分子(フラレン)があります。C<sub>60</sub>フラレンは12個の五角形と20個の六角形からなるサッカーボール型をしており、アルカリ金属やカルシウムをその中に入れ込むと低温で超伝導性ができます。C<sub>70</sub>フラレンの場合は12個の五角形と25個の六角形からなるラグビーボール型です。角笛の形をしたカーボンナノホーンはいろいろな物質を吸蔵することができ、ナノ先端材料と期待されています。「機能的なものは美しい」、ナノス

ケールの世界を研究していると、そう思わせてくれる事例を多く見受けました。しかし、生体分子の中には、機能性を高めるため、構成が極めて複雑になっているものもあります。例えば、いくつかの分子やイオンが組み合わさることによって、ひとつの分子では見られないような新たな機能を生み出す「超分子」という現象もそのひとつです。DNAの複製と転写・翻訳の過程で、超分子の構造を持ったタンパク質の合成酵素群はエラーの確率が低いことが知られています。それは、複数の分子が組み合わさることにより、エラーを識別し、その部位を除去する校正能力が備わるからです。その複雑に入り組んだ立体構造には、雪の結晶やフラレンのような「分かりやすい美しさ」はありませんが、その形は進化の必然から生まれたものであり、原始海洋に生命が誕生して以来、悠久の時の中で、生体分子が環境に適応しようと試行錯誤で練り広げてきた生命史が刻み込まれているのです。そう思うと、一見美しくは見えないこの形にも、形としての美しさだけではなく、機能の美しさがあると言えます。

デザイン学部教養部会教授